

令和6年度障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（パッケージ型導入支援）
における導入事例

法人名 社会福祉法人たかおか新生会
事業所名 新生苑さくら通り

1. 製品名 名称 見守り介護ロボット「aams(アームス)」
特徴 心拍、呼吸、体動、離着床、睡眠の状態などを離れた場所から見守ることができる、マット型の見守り支援介護ロボット。
2. パッケージ型による機器導入前の課題
入所者の高齢化が進む中で、身体疾患を有する利用者が増加傾向にあり、症状が悪化した場合に、身体状態（心拍、呼吸、体動等の生体情報）を頻回かつ継続的に観察・記録しなければならないケースが増加している。
3. パッケージ型による機器導入の推進方法
 - ① 職場環境の整備…（3月上旬）アームスの設置場所から信号を受信する可能性のある範囲に Wi-Fi 設備を設置し、通信環境を整えた。
 - ② 業務の明確化…（3月中旬）夜勤時の巡回時間は夜勤者の裁量にて実施していた。（特定の利用者のみ時間設定あり）3月末より基本は22：00、0：00、2：00、4：00を巡回時間（全利用者）と設定した。
 - ③ 手順の作成（OJT）…（3月下旬※）業者に（アームス）基本操作を教わる。また夜勤帯に使用するパソコン及び移動中も警報等を受信できるタブレットパソコン（iPad）にアームス操作を説明するアプリをインストールする。しばらく夜勤の際、職員にアプリを起動し操作方法を習熟する。
※第1回業者説明（3月27日）…基本操作を学ぶ。
※第2回業者説明…機器を使用しその方に合った設定やより細かな操作方法を学ぶ。（5月下旬～6月上旬予定）
 - ④ 情報共有…（4月上旬）男・女支援会議にて職員の周知状況を確認。（アームス）使用利用者の選定を実施。男女各2名を選定。
 - ⑤ 記録・報告…（5月上旬）仮使用開始。記録は支援記録へ記載する。朝の申し送り、夕方の引継ぎ時に報告。
4. パッケージ型による機器導入後の成果
 - ① 数値化された脈拍、バイタルを一目で確認できる。
 - ② 眠りの深さや覚醒のタイミングが把握でき、次の支援へ繋ぐことができる。
 - ③ 睡眠データ採取の容易化
 - ④ 夜勤帯の安心感（生存確認等）
 - ⑤ 夜間帯の立ち上がり・起床、体調の確認できる安心感（転倒防止等）
 - ⑥ 根拠のある記録が作成できる。
 - ⑦ 多職種（医療）との情報共有が正確かつ詳細に行える。
 - ⑧ Wi-Fi 環境を整備したことにより他の機器（iPad、インカム等）の導入が可能
5. 今後の課題
 - ① 機器で状態を確認し、満足するのではなく本人の状態を目視で確認も必要
 - ② 定期巡回では全利用者を巡回しているため、4台の導入では大きな生産性の向上につながっていない。更なる機器の導入、全利用者への導入も検討
 - ③ 幅広い機能があり、機器の活用や応用
 - ④ 警報等の正確性、有効性等に習熟し、巡回の効率化を進める。
 - ⑤ アームスによる記録・情報の共有・活用方法を検討し、伝達、引継ぎの省力化・効率化を進める。
 - ⑥ 改善活動のチーム作り
 - ⑦ 振り返りを行い課題の解決等

6. 写真

